第２回総合教育会議議事録

と　き　平成２７年１１月２４日 15:00～16:45

ところ　小野市役所本庁舎５階第２委員会室

出席者の職、氏名

小野市長	蓬　莱　　務	
教育長	陰　山　　茂	
教育委員	冨　田　益　子	
教育委員	西　村　賢　一	
教育委員	小　林　道　美	
教育委員	河　嶋　栄　里　子	
事務局職員	教育次長	松　野　和　彦
	教育総務課長	上　原　和　樹
	学校教育課長	小　西　博　泰
	いきいき社会創造課長	松　本　英　人
	体育保健課長	駒　田　　茂
	教育総務課	小　林　教　子

傍聴者　４名

１．　開　会（上原課長）

２．蓬莱市長あいさつ

ただいまご紹介いただきました、小野市長の蓬莱でございます。

小野市総合教育会議の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

５月１３日に第１回目の「総合教育会議」を開催して、本日の会議で第２回目となります。前回の会議では、この「総合教育会議」のポイントは３点であると申し上げました。すなわち、①単なる報告会・連絡会ではなく「経営者会議」であること、②管理項目の明確化と情報開示を行うこと、③情報の共有一元化、そしてその水平展開を徹底することであります。

小野市では、市長部局と教育委員会とは、これまでから密接な連携を図ってきており、学校現場における「職員会議」や「職員朝礼時の報告事項に関する記録」など、文書での記録を徹底することはもとより、何か事案が発生すれば、教育委員会より市長への「報告・連絡・相談シート」により、ただちに報告がなされる仕組みも構築しています。

本日の「総合教育会議」では、主に小中一貫教育などについて意見交換を行うことを予定しております。

教育行政を取り巻く環境としましては、日本は教育立国と言われながら、ＧＤＰの中で教育に対する支出が少ない状況です。国の方針では、教師を約３７，０００人減らす計画で、加配人数も４，０００人減らす方向です。少子化に合わせてどうしても教師の減数も必要なのだとは思いますが、減数をしてしまうと教師が足りなくなるだろうというのが私の考えです。全ての先生が生徒の全てをサポートするのではなく、法人や地域の方などにも協力を仰いで先生の負担軽減もすべきです。ＰＴＡの活動、先生の課外活動、地域やその他のベテラン教員の方を取り込んで、どのように先生の負担軽減をしていくのか、小野市が先がけて戦略的に考えていかなければいけません。

今回の全国学力学習状況調査の結果を見ると、小学生は全国平均より低い、中学生は高いという結果でした。義務教育の最後の成績としては評価できますが、この調査では小学６年生と中学３年生の結果しか出ないわけで、それ以外の部分で学校格差もあると思います。他県の例では、小学校５～６年で「どこの高校に行くか」を考え、中学校では「どこの大学を目指すのか」を考える、というところもあります。これは、小野市にはない考え方です。学力だけが全てではありませんが、教育行政をとりまく国家としての状況が危機的状況である中で、小野市

の教育は地域特性を鑑みた上で、どのような成果を求めているかを議論していきたいと思います。様々なチャレンジをして、アウトプットをしていきましょう。総合教育会議のファンクション（機能）とは何なのかをクリアにしていきたいとも思います。

忌憚の無い議論をお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

３．協議事項

（１）学校管理項目の整理状況について

小西課長　（上記項目について、別紙様式を用いて説明。）

学校運営上必要な項目を「管理項目」としますと、学校としてどう運営していくのかを説明すること、学校運営に責任を持つこと、これ全てが学校の「管理項目」としてあがってまいります。例えば、誰が学校の鍵を開けて、誰がどこに靴を置いて、どこにどの先生が駐車して、というようなこと全てが「管理項目」であります。本日は法令に基づく項目と、小野市独自の項目をご説明します。

「管理される」＝マイナスイメージを持たれる言葉ですが、

①業務の見直しを図っている

②記録を通じて新たな視点に気付いていく

③プロとして教育に責任を持てる体制を構築していく

というねらいで「管理項目」として挙げています。

学校教育課で管理している項目としては、主に８点。各学校で管理しているものが１２点。中には現在検討中の管理項目もあります。

まず、市統一で管理している、「不登校の記録、いじめ等の記録等」についてです。各校と学校教育課で情報共有しています。生徒各個人のシートも作成し、一人一人の状況を把握しています。小野市「いじめ等防止条例」に係る、小野市独自のフォーマット

を作成し、市長まで報告できるような形をとっています。このことについては、全国の生徒指導学会でも報告しているので、全国の方にも発信しています。

学校の行事予定については、各月の行事を各校でまとめてもらい、学校教育課で集約し、職員が出席したり、議員のみなさんに通知したりします。どの先生がどんな授業をし、誰が助言をするのかも一覧にして把握しています。

全国学力学習状況調査についてです。実際に先生に問題を解いてもらうことで、どんな学力が必要なのか、今後どういった方向性で指導すべきかを分析し、各校の学校だよりに掲載し、保護者にも啓発しております。今回は、小学校は平均をやや下回り、中学校では全国平均を上回る結果でした。大規模校と小規模校の学力の差ですが、今のところ、特に大きな差や顕著な特徴は見受けられません。平素から意識が高く、学習の積み残しのない学校は成果が上がったとみられます。小・中学校ともに、学習習慣が身についていること、全体的に落ち着いた学校生活を送れていることが見てとれます。管理職の意識や児童生徒の意識の差が、正答率の高かった学校と、低かった学校に顕著に表れています。「話す・聞く」の分野については上位です。解答時間の不足、予習・復習のアンバランスさが浮き彫りになりました。それから、読み書きがやや弱いので、読書をさせること、しっかり書かせることが課題であることがわかりました。全国学力学習調査は、他市と結果を比較するためではなく、先生の指導改善に役立てたり、児童の実態把握に役立て、個に応じた支援をするための調査です。各校区で今後取り組むべき課題や対策をまとめており、ホームページでも掲載しております。

次に「日課表」についてです。文科省で決められた授業時間数をきっちりとできているか管理をするためのシートです。生徒指導

の記録も書くようになっていますが、現在各校それぞれのフォーマットになっています。今後、データベース化し、共通のフォーマットを作成したいと考えています。

「職員会議録、職員朝礼の記録」も残すようにしています。児童の支援・指導方法等、について記録してあります。

「学校日誌」は本年度からデータ化され、小中学校共通のフォーマットになりました。主に教頭先生が記録しています。

「健康診断票」については、以前より小中一貫で残す記録となっています。小学 1 年生から中学３年生までの身体の記録として残すようになっています。

続いて、現在検討中の管理項目です。各校では、小学校で連絡帳、中学校で「生活の記録」をつけておりますが、これを通じて生徒のいじめ等についていち早く気付き、共通理解をすることで、子どもの危機にすぐ気付ける体制にしたいと考えております。『フェイスシート』のような、家族構成や市役所内各課からの情報、指導歴、緊急連絡先等が一目でわかるものを作成し、よりよい子どもたちの指導に役立てていきたいと思っています。

蓬莱市長　ご意見等ございましたらお願いします。

西村委員　「管理項目」を整理・把握することによって、小野市の子どもたちをどのように変えようとしているのでしょうか。項目だけでなく、方向付けを明示していただきたいです。

小西課長　記録を通して新しい視点で気付けることがあります。例えば中学３年生の生徒で何か問題があったら、小学校の指導歴を見ることで、それを踏まえた上での教育や支援体制を組むことができます。管理項目を把握することで、小野市の教育に責任を持てる指導体制になると考えています。

蓬莱市長　今までないことをあげているのではなく、今も既に行っている内容を「管理項目」という言葉でまとめていただきました。当たり前

のことを当たり前にして、それをきちんとまとめて保存できる仕組みにしましょうということですね。様々ある管理項目を、対策が必要な内容順に、Ａ・Ｂ・Ｃなどのグループ分けをして絞り込んで欲しいと要望しました。今回あげていただいたのは、中でも重要度が高いＡグループに分類できそうなものですね。

教育長　管理項目の目的は、生徒指導・学習指導をどう組織的に行っていくか、情報の共有化をきちんとしているかどうか、また、それをすることで先生全員が知り、必要であれば組織で関わって解決していくということです。例えば、いじめ・不登校等の記録については、どういう環境で、また、どういう問題で休んでいるかを記録することで、それが解決できるのかどうか、家庭まで行かなければいけないのか等を議論するために管理するものです。目的は子どもの成長であり、それをまとめたものが管理項目です。

冨田委員　生活の記録は各校で先生が書いていらっしゃいますね。フォーマットを統一する必要があるのでしょうか。『フェイスシート』も、いつどのような形で、誰が記入するのですか。

小西課長　現在、各校で工夫をこらした「生活の記録」を使用しています。今夏の岩手のいじめ事件を受け、いち早く子どもの異変に気付くために、統一したフォーマットにしていこうと考えています。いじめのアンケートと同じように、学校独自のフォーマットで行っているところもあるので、統一にすることによって情報の一元化につながります。

蓬莱市長　一つ間違えると人権問題になりかねないので、誰がどこまで記録していいのかを判断するのでしょうか。具体的に、誰がどう書いていくのかを明確にしてください。そして、それをどう運用するのか、どのように守秘義務を守るのですか。

小西課長　各学年の担任、または担当の者が記録していく予定です。取り扱いについては非常に注意する必要がありますので、管理方法を検

討していきます。これまでも、課題を抱える児童に関わった際、もっと早く生徒の情報を知っていれば問題にならなかっただろうと感じたことが多々ありますので、今後『フェイスシート』を活用できたらと思います。

蓬莱市長　例えば、『フェイスシート』に連番をつけてしっかり台帳とともに管理をすれば、きちんと管理できると思います。

河嶋委員　保護者には、こういった管理をするということお伝えするのでしょうか。自分の家庭や子どものことを詮索されるようなマイナスイメージを持たれるかもしれないので、保護者にもしっかり伝えて欲しいです。新しいフォーマット等を導入することで、先生の負担もかなり大きくなるのではないですか。

小西課長　『フェイスシート』は子どもたちの指導に使うものですので、保護者の方に特にお伝えすることはありません。導入当初は先生方の負担が大きいと思いますが、一度データ化されれば今後の負担は軽減されます。

蓬莱市長　一旦入力してしまえば、それをベースに情報の追加もしていけますので、最初のデータ作成は大変だが、ルーティンになれば負担がなくなるでしょうね。先生方は多忙ですので、何があってどう指導したかを忘れていってしまわないためにも、記録しておくことが大事ですね。

西村委員　全国学力学習状況調査の結果・分析を、今後どう活用していくのでしょうか。今後も継続してデータをとって、学力向上につなげてください。

小西課長　全ての先生方が実際に本調査の問題を解き、学力の方向性を知ることで、今後どういう学力・どんな力を育成すべきなのかを分析できます。それを共通理解した上で、小学校低学年の時からそれに沿った指導が必要になります。例えば、メダカの雄雌の見分け方の問題では、小学校３年生でメダカの成育の体験をしていれば

解けるものでした。調査を実施する小学６年生だけが努力するのではなく、全校もしくは小野市全体の取組として、方向性を共通化していく必要があります。

小林委員　何事も基礎が大事で、一から系統立てて教えることで成果が出ると思います。ですので、小学校での教育が大事ですね。

蓬莱市長　点だけをとらえるのではなく、全体をとらえなければいけないということですね。新たな教育をする必要があるのかなと思います。

教育長　小学校の成績の付け方は３段階ですが、中学校は５段階なので、保護者の捉え方も変わってきます。具体的な措置として、小学校２～３年生あたりから、到達度テストのようなものを行って、指導不足の点を精査したいと考えております。

蓬莱市長　今後、この件についてもっと議論が必要ですね。

（２）小中一貫教育について

小西課長　（上記項目について、パワーポイントで説明。）

小野市では、川島隆太教授の脳科学理論に基づいて教育を進めています。マイナス１歳から１５歳までの１６か年教育がそのうちの一つです。出産前の方を対象に、未来のママパパ教室を年６回開催。７か月教室を年間１２回。保育所と幼稚園に出向いて研修を継続し、いきいき子育て教室も年間１６回開催しております。このようにして、就学前から子育てに関する学習を行って、スキンシップの大切さ、早寝早起き朝ごはんの定着を図っています。小学校に入学してから中学校まで、おの検定を継続して行い、基礎学力の定着を図っています。

小学校ではクラス担任制で、担任が全教科を教え、どちらかといえば、受容的な対応、いわゆる母性的対応です。一方、中学校は教科担任制です。子どもたちの自立心を育むような、子どもたちの能動的な学びを支援し、少し距離を置いて高いところから見る

ような、父性的対応です。小学校では単年度で子どもたちの成長を育んでいく形、中学校では３年間の見通しを持った指導をしています。小野市では、小学校の５，６年生にスポットライトを当て、理数教育の充実を重点に置いた指導を考えています。義務教育が終わる１５歳になった時に、学力、リーダー性、自立性の向上につながるように、責任が持てる教育を目指します。

①第１期　小１～４（児童期）、②第２期　小５～中１（準生徒期）、③第３期　中２～中３（生徒期）となっており、それぞれの特徴をふまえた上で教育に携わっています。①の時期は、教師や親の言うことを受容する時期。②の時期になると、自我のめばえとともに、物事の好き嫌いが強くなって、自分の興味関心のあることにはものすごく精通するのですが、それ以外は嫌がります。自立が始まる時期です。③の時期になると、目標を持ち、高校入試に向かいます。

時期それぞれの指導方法についてです。①は、学問への姿勢・基礎ができる時期なので、宿題をきちんとする等、基礎的なことを丁寧に一つ一つ教えていきます。②の時期では、児童によって個性が出てくるので、指導が難しくなってきます。ここで教科担任制を導入することで、より専門性の高いことを教えることができます。また、社会的なルールを守る姿勢を教えることも大切な時期です。③では、将来に対する目標が明らかになってきます。小学校６年生から中学校１年生で学んだことが、この時期を支えることになります。②の時期に充実した支援をすることで、子どもたちの伸びを向上させていきたいと考えています。ベースとなるのは基礎基本の学力の向上なので、それも忘れないようにしたいです。

今後は、専門性の高い教育をどのように展開していくのかが課題です。小学校は比較的、文系の先生が多いので、理科に興味を持

たせるような教育を②で行うために、専科の先生の配置を視野に検討中です。

小中一貫教育を進めるにあたって、校務管理システムの構築が必要になります。現在は、各校ごと情報を管理し、教育委員会に集約する形で、市と学校はつながっていますが、今後小中一貫教育を進めていく上で、市と小・中学校で統一したフォーマットでの情報共有が必要になってきます。９か年一貫した情報共有をすることで、小中一貫教育の際のスムーズな指導につなげたいと思っております。校務管理システムについては現在構築中です。

それから、小中一貫教育の検証の必要性も出てきます。子どもがどう変わったのかの検証、指導の改善と、子どもたち一人一人の成長過程の把握、保護者に対する情報提供などを行う必要があります。学年ごとに先生自身の指導の過程や観点を振り返るための到達度テストを導入したいと思っています。不十分な部分の指導を今後できるように、実際にどこまで理解できているのかを判断するためのものです。１２月初めぐらいに、当年度の学習内容を振り返るような到達度テストを行いたいと思っています。

市も含め、学校全部で情報共有するシステムの導入は、全国初の取り組みになります。個々の情報漏洩がないようにマネジメントの徹底が課題になります。小中一貫教育の成果の向上を目指したものであります。子どもたちの学力向上、社会性を身につけるための、かつ支援体制を組むためのシステムです。

蓬莱市長　人口が減り、１学校では運営が成り立たないので、小中一貫教育を進めている地域が多いが、こういったプラスの観点からスタートしたことは非常に良いことだと思っていますし、成功させたいと思っています。何かご意見ございますか。

河嶋委員　②の時期は非常に複雑な時期なので、小中連携で先生方がサポートしてくださっているのがわかれば、保護者も生徒も安心できると

思います。

蓬莱市長　父兄の方々は、小中一貫教育をマイナス面からのスタートだとまだ捉えているかもしれないので、小野市の小中一貫教育の理念をもっとＰＲする必要がありますね。

小林委員　今年と、昨年までの河合地区の生徒の意識と比較・検証が必要ですね。

蓬莱市長　早急に答えを出していい部分ではないかもしれませんが、父兄が一番知りたがっていることだと思いますね。

小西課長　別紙で小中一貫教育の各校区のビジョンや取組を作成し、保護者の方にも周知し、ご理解や支援をしていただこうと思っています。興味関心は持っていただいています。

蓬莱市長　現段階で、河合地区の小中一貫への評価は、当初のねらいと比較してどうなのかをアンケートしてみないとわかりませんね。卒業生に小中一貫をやって良かったか、どういう印象を持ったのか等のヒアリングをして、全体の評価をする必要がありますね。

冨田委員　河合地区は今５・４制を取っていますが、他校区も同じようなスタイルの小中一貫教育を進めていけないのでしょうか。

教育長　河合地区の小中一貫は、小学校５年生を更に一歩成長させ、６年生で中学生の水準を目指す目的でスタートしたのですが、他地区で同じスタイルでするのは物理的に困難です。高学年専門の先生を配置する、もしくは、５・６年生の先生方を専科にする等の措置をとって、異なったスタイルであっても、どの校区も成長の差が生まれないようにしたいと考えています。

蓬莱市長　父兄の立場からすると、小野市の中で一部は一貫教育、一部はそうでないという形がなぜなのか、いつか問われると思います。小中一貫教育をしてもしなくても、子どもの成長に差がない、どんな教育方法が各校区でベストなのか、そういったものの周知が必要です。見える成果を出す必要もあります。将来どういう方向性で

いくのか判断をしていかなければいけませんね。

教育長　私は河合方式が小中一貫教育だとは思っておりません。あくまでも５・４制としての小中一貫教育を試みています。他校区でも小中一貫教育はしますが形態は違います。人口の問題で、いずれは２校を１校にしなければいけない状況になる形になるかもしれませんが、いずれも同じ効果が出てくると思います。

蓬莱市長　全国で行われている小中一貫教育と小野市の理念は違うということをはっきり周知しなければいけないと思います。

西村委員　理数系の専科の先生が必要なら、教員の増員が必要になってくるのではないですか。

蓬莱市長　例えば、理数科に詳しい方を小野市独自で採用して増員を図るなどしないと、現状では人数が足りないと思います。

河嶋委員　到達度テストをして結果が出た時に、不十分な部分がある児童の対応を、退職されたベテランの先生が個別指導でつくというのも一つの方法かもしれません。先生一人一人の負担を軽減するため、且つ十分に個別指導をするためにも、先生を増やして欲しいですね。

蓬莱市長　小中一貫教育をしていく上での課題は、理数教育・英語教育の教員不足ですね。

小林委員　定数が減る中で中身を充実していかなければいけませんので、教科外担任が可能になればもっと柔軟に対応できると思うのですが。

蓬莱市長　制度の変更が必要なので、教科外を教えられるように、規制を廃止するよう要望を出さないといけませんね。民間の方でも英語を話せる人が多くいるので、そういう方を小野市の教育に取り入れていけたらいいですね。

（３）意見交換

西村委員　学校のトイレについてです。現在、和式と洋式ですが、全トイレ洋

式にはならないのでしょうか。今の子どもは和式のやり方を知らない子が多いので。

蓬莱市長　　全面洋式に改修の方向で進行中です。

（４）次回の会議に向けて

蓬莱市長　　ＰＴＡの在り方や、教育委員会事務局の組織の機能について、原点に戻りゼロベースで洗い替えをして考え直すべきではないかと思います。こういった教育行政をとりまく組織の見直しを、次回のテーマにしていきましょう。

４．閉会（上原課長）

記　録　者　　小林　教子

会議録署名人

〃